



2025年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月14日

上場会社名 マテリアルグループ株式会社 上場取引所 東
コード番号 156A URL <https://materialgroup.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 青崎 曹
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 吉田 和樹 TEL 03 (6869) 1100
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年8月期第1四半期の連結業績（2024年9月1日～2024年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第1四半期	1,639	27.7	242	18.8	243	23.2	151	21.2
2024年8月期第1四半期	1,283	—	204	—	197	—	125	—

(注) 包括利益 2025年8月期第1四半期 151百万円 (21.2%) 2024年8月期第1四半期 125百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期第1四半期	15.60	15.41
2024年8月期第1四半期	12.75	—

(注) 1. 当社は、2023年8月期第1四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2024年8月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。

2. 2024年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は2024年8月期第1四半期連結会計期間末において非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期第1四半期	3,735	1,934	51.8
2024年8月期	3,260	2,025	62.1

(参考) 自己資本 2025年8月期第1四半期 1,933百万円 2024年8月期 2,024百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	0.00	—	25.06	25.06
2025年8月期	—	—	—	—	—
2025年8月期（予想）	—	0.00	—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年8月期の連結業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	2,952	10.6	397	△7.9	397	△3.7	261	△4.9	26.90
通期	6,303	19.4	976	20.4	975	27.7	642	△9.4	66.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年8月期1Q	9,877,197株	2024年8月期	9,877,197株
② 期末自己株式数	2025年8月期1Q	137,509株	2024年8月期	139,744株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年8月期1Q	9,738,411株	2024年8月期1Q	9,827,197株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予測のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明資料の入手方法)

決算説明資料はT D n e tで同日開示しております。また、当社ウェブサイトにて同日掲載しております。

(決算説明会内容の入手方法)

2025年1月23日に決算説明会をWEB配信にて開催し、説明会動画を後日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計方針の変更に関する注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループは、「Switch to Red.」(個性に情熱を灯し、価値観や常識を変え、世界を熱くする。)をビジョンとして、マーケティングコミュニケーション(注1)領域においてPR発想/ストーリーテリング(注2)をコアとして顧客のブランドの成長を支援する事業を引き続き行っており、デジタルマーケティング領域も含めて顧客のブランド価値の最大化への貢献に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間につきましては、当社グループでは引き続き積極的な人材採用、案件管理体制の強化を行い、各事業の規模拡大を図りました。また“明日、選ばれるための戦略”であるPRと“今、選ばれるための戦略”であるデジタルマーケティングの融合を目指し、PRコンサルティング事業とデジタルマーケティング事業の連携を継続的に深めております。

加えて、顧客の持つマーケティングコミュニケーション全体における課題を適切に捉えることによって、クロスセル等の当社グループ全体として価値提供を行うための活動にも積極的に取り組みました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、売上高1,639,569千円(前年同期比27.7%増)、営業利益242,879千円(前年同期比18.8%増)、経常利益243,917千円(前年同期比23.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益151,875千円(前年同期比21.2%増)となっております。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

(PRコンサルティング事業)

同事業に属する株式会社マテリアルについて、当第1四半期連結累計期間は、PRパーソンの採用も順調に進捗するとともに、代理店を通じた取引、直接販売取引ともに堅調に推移し、既存顧客からのリピート発注に加え、様々な業種の新規顧客の獲得が進みました。また、同事業に属する株式会社ルームズについて、当第1四半期連結累計期間では引き続き新規顧客の獲得に注力しました。加えて、前連結会計年度にM&Aにより子会社化したキャンドルウィック株式会社においても、既存顧客からの案件の継続受注及び新規顧客の獲得に注力しました。

以上の結果、セグメント売上高は1,451,413千円(前年同期比33.2%増)、セグメント利益は325,921千円(前年同期比34.5%増)となりました。

(デジタルマーケティング事業)

当第1四半期連結累計期間では、広告宣伝費も活用した顧客獲得を行うとともに、デジタルを起点にしたコンサルティング業務の提供、PRコンサルティング事業で培ったPR発想/ストーリーテリングを活かしたデジタル広告運用支援及びクリエイティブ制作業務の提供に注力しました。また引き続きWeb接客ツール(注3)「Flipdesk」の販売にも注力しました。

以上の結果、セグメント売上高は158,284千円(前年同期比28.3%増)、セグメント利益は39,142千円(前年同期比10.1%減)となりました。

(PRプラットフォーム事業)

当第1四半期連結累計期間では、引き続き広報支援プラットフォーム「CLOUD PRESS ROOM(クラウドプレスルーム)」の営業活動の強化と各種広告宣伝による認知度向上施策を行い、新規IDの獲得に注力しました。また株式会社PRASのフリーランサープラットフォーム事業においても、新規顧客の獲得に注力しました。なお、前連結会計年度において同セグメントにて運営していた人材紹介事業を事業譲渡しております。

以上の結果、セグメント売上高は72,772千円(前年同期比23.7%減)、セグメント利益は14,158千円(前年同期比285.9%増)となりました。

- (注) 1. マーケティングコミュニケーションとは、ブランド・商品・サービスとそのステークホルダーが双方にコミュニケーションを取りながら行う販売促進等の活動を指し、その手法には、広告やプロモーション、PR、デジタルマーケティング等が含まれております。
2. PRとは、Public Relations (パブリックリレーションズ) の略であり、企業や団体がその組織を取り巻く社会・人々との良好な関係を構築するための活動を指しております。
またPR発想/ストーリーテリングとは、トライブ (共通の価値観や興味を持つ人々が集まってできるコミュニティ) から逆算した情報流通設計により、より多くの人と深い関係性を構築しやすい発想術と定義しております。
3. Web接客ツールとは、サイトに訪問したユーザーの訪問/閲覧/購買履歴データをもとに、訪問者の趣味趣向を把握し、サイト上で訪問者に対して適切な情報訴求を行い、サイトからの離脱防止・サイト内の回遊促進・コンバージョン率向上の効果が見込めるサービスを指しております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ490,701千円増加し、2,447,772千円となりました。主な要因は、売掛金が398,803千円、電子記録債権が52,689千円増加したこと等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ15,660千円減少し、1,287,296千円となりました。主な要因は、のれんが13,474千円、有形固定資産が4,345千円減少したこと等によるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ475,040千円増加し、3,735,069千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ572,952千円増加し、1,584,254千円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が309,352千円、短期借入金が200,000千円増加したこと等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ6,984千円減少し、216,384千円となりました。主な要因は、長期借入金が8,385千円減少したこと等によるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ565,967千円増加し、1,800,638千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ90,926千円減少し、1,934,430千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が151,875千円増加した一方、株主配当金の支払244,020千円をしたこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2024年10月11日の「2024年8月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績予想等は、当社が発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,122,606	1,150,434
電子記録債権	24,559	77,248
売掛金	649,278	1,048,081
仕掛品	25,129	43,811
前払費用	78,830	69,470
その他	57,300	60,140
貸倒引当金	△633	△1,414
流動資産合計	1,957,071	2,447,772
固定資産		
有形固定資産	129,500	125,154
無形固定資産		
のれん	571,105	557,631
その他	45,834	48,355
無形固定資産合計	616,939	605,987
投資その他の資産		
敷金及び保証金	241,137	240,477
繰延税金資産	260,514	260,833
その他	55,465	55,444
貸倒引当金	△600	△600
投資その他の資産合計	556,517	556,155
固定資産合計	1,302,957	1,287,296
資産合計	3,260,029	3,735,069
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	251,024	560,377
短期借入金	—	200,000
1年内返済予定の長期借入金	122,078	121,826
未払金	351,004	449,035
未払法人税等	99,552	95,097
前受金	84,001	39,647
賞与引当金	6,666	9,415
その他	96,975	108,854
流動負債合計	1,011,302	1,584,254
固定負債		
長期借入金	152,098	143,713
その他	71,271	72,671
固定負債合計	223,369	216,384
負債合計	1,234,671	1,800,638
純資産の部		
株主資本		
資本金	117,140	117,140
資本剰余金	351,671	350,914
利益剰余金	1,679,024	1,586,879
自己株式	△123,662	△121,684
株主資本合計	2,024,173	1,933,249
新株予約権	1,184	1,181
純資産合計	2,025,357	1,934,430
負債純資産合計	3,260,029	3,735,069

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
売上高	1,283,645	1,639,569
売上原価	546,020	674,430
売上総利益	737,624	965,138
販売費及び一般管理費	533,252	722,258
営業利益	204,372	242,879
営業外収益		
受取利息	0	0
受取手数料	425	304
その他	313	1,852
営業外収益合計	739	2,157
営業外費用		
支払利息	383	630
上場関連費用	1,319	—
子会社株式取得関連費用	5,448	—
為替差損	—	489
営業外費用合計	7,150	1,120
経常利益	197,961	243,917
特別利益		
出資金清算益	5,457	—
特別利益合計	5,457	—
税金等調整前四半期純利益	203,419	243,917
法人税等	78,123	92,041
四半期純利益	125,296	151,875
親会社株主に帰属する四半期純利益	125,296	151,875

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	125,296	151,875
四半期包括利益	125,296	151,875
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	125,296	151,875

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PRコンサル ティング事業	デジタルマー ケティング事 業	PRプラットフ ォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,089,755	123,360	70,529	1,283,645	—	1,283,645
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	48	24,837	24,885	△24,885	—
計	1,089,755	123,408	95,366	1,308,530	△24,885	1,283,645
セグメント利益	242,270	43,540	3,669	289,479	△85,107	204,372

(注) 1. セグメント利益の調整額△85,107千円には、セグメント間取引消去3,268千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△88,376千円が含まれております。全社費用の主なものは報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「PRコンサルティング事業」セグメントにおいて、2023年11月30日付でキャンドルウィック株式会社の株式を取得したため連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は137,267千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PRコンサル テイング事業	デジタルマー ケティング事 業	PRプラットフ ォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,445,963	135,665	57,939	1,639,569	—	1,639,569
セグメント間の内部売 上高又は振替高	5,450	22,618	14,832	42,901	△42,901	—
計	1,451,413	158,284	72,772	1,682,470	△42,901	1,639,569
セグメント利益	325,921	39,142	14,158	379,222	△136,342	242,879

(注) 1. セグメント利益の調整額△136,342千円には、セグメント間取引消去△1,808千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△134,533千円が含まれております。全社費用の主なものは報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	8,548千円	16,128千円
のれんの償却額	11,019	13,474

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
当座貸越極度額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	—	200,000
差引額	700,000	500,000